

舞台は世界へー

バレーボール部・石川祐希選手に聞く

日本で開催されたFIVB ワールドカップバレーボール2015（男子競技日程 9/8～23）で、日本代表として活躍し、セカンドベストアウトサイドスパイカー賞を受賞した本学法学部2年生の石川祐希選手（バレーボール部）が、10月2日、酒井正三郎総長・学長に受賞の報告として表敬訪問しました。

表敬訪問の前に広報室が行った単独インタビューでは、大会直後にもかかわらず、場所を変えての写真撮影や歩きながらの質問にも誠実に対応してくれ、その姿に一流選手の片鱗がみられました。



「中大の星どころか、日本の星ですね。これからの活躍にも期待しています」と酒井総長・学長からの激励がありました。

楽 しかった。って感じですかね、..

- FIVB ワールドカップバレーボール 2015…日本は
- 6位で終了。今大会ではリオデジャネイロオリンピックの切符を獲得することができなかった。来
- 年行われる世界最終予選に期待が高まる。



広 報 室： W杯おつかれさまでした。まずは感想をおねがいします。

石川選手： アジア大会の経験はありましたが、世界大会は初めてで、楽しかったって感じですかね。

広 報 室： 「楽しかった」とは？

石川選手： 強いチームと対戦できたところが特に。そして、自分の力が通用する部分、通用しない部分、それぞれを感じ取れたことです。

広 報 室： これから世界と戦っていくうえでの課題は？

石川選手： ディフェンスの意識をもっと高く持ちたいです。オフェンスもほかの国の選手を見てみると、まだまだ全然足りてない。高さとか、パワーとか。もっと強化していきたいです。

広 報 室： W杯は激しい消耗戦だったと思いますが、体力面で心がけたことは何かありますか？

石川選手： 特にないです。今までの自分だったら3試合くらいやっただけでもう、最後にはだいぶ疲れてましたけど、大学に入ってトレーニングをしっかりとってきたので、体のどこかがつったり、試合後半にジャンプができなくなったり、ということはありませんでした。

広 報 室： 昨年の1年生の冬に、イタリアに短期留学されましたが、その経験はどのようにいされましたか？

石川選手： 技術などに変化はないですが、海外の選手たちと普段から練習をやっていたので海外選手というものに対して、精神面での不安感がなくなりました。

広 報 室： あらためて石川選手にとって、バレーボールの魅力は？

石川選手： チームでプレーするところですかね。一人ではプレーができませんから。一人一回しかボールに触れることができないし、しかも瞬間です。それをみんなでカバーしてうまくやっていくところが魅力になって思います。

広 報 室： これから大学の秋季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦が始まります。優勝に向けてがんばってください。本日はありがとうございました。



中央大学バレーボール部・松永理生監督にお話しを伺いました

彼は日ごろから「バレーを楽しむ」という言葉を口にしています。楽しむためにはバレーを遊びのようにするのではなく、極めていくことが大事だと。極めればバレーというものは楽しくなるのではないかと。その言葉は私も勉強になりましたし、そういう発想を私自身も大事にしていきたいと思っています。大学の監督という立場としては、石川にはスピードを上げすぎで疲れないように体調を管理し、じっくり自分の時間をとりながら、バレーを長くずっと楽しんでほしいと願います。

世界レベルのアスリートを育成するトレーナーと、尊敬するロールモデルの存在が中央大学へ入学する大きな決め手となった。